

萌 moeme 芽

Foster our possibilities



2年 小論文の書き方



講師 (株) マイナビ
小倉央也氏

10月13日の講演会で小論文で身につけたい力について確認しました。

生徒感想あり

「働くとは」地域連携探究アドバイザー ぐんまを元気にする会 講師 8 名来校

1年生は、10月13日(火) 5~7限の拡大授業で、「他者を知る」「自己の在り方・生き方」を探究するための講演会を行いました。

全体会を Zoom で配信しつつ、3時間の拡大授業で開催。教室を移動して4名の講話を伺いました。社会課題とIT技術を統合して今までにないアイデアを提供する大塚さんや、国籍などの多様性を生かした経営をする相京さんなど、革新的な取り組みを職業とする講師の話に生徒は引きこまれていました。

キャリア探究と講師たちとの関わりは今年で5年目となりました。2020年度1年生より、地域探究協働アドバイザーとして協定を結んでいます。



ステップアップ 授業ちょっと見 シート



ステップアップサポート事業が実施されました。先生方が授業をちょっと見しあって、その振り返りをラブレターとしてシートに記述しました。了承いただいだ一部を紹介させていただきます

(裏面)

2年「小論文の書き方」講演会 生徒感想

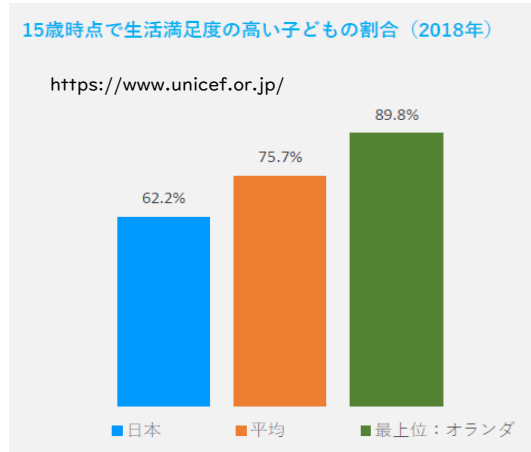
- 物事に対して興味・関心を持ってさまざまな考え方を理解して自分の意見を持つことも必要だと感じた。日頃から頭の中で文章化したりすることで、自分の考えをまとめる力もつき、発表などの際に役立つと思う。
- 探究をやることは、小論文をやることにつながるので、一生懸命取り組んでいきたい
- 今まで小論文の内容を知らずに、正直本番一発でもできるのではないかと気持ちがあったので、よく考えるきっかけになった。入試だけでなく社会に出てからも小論文を書ける能力は使える(以下略)
- ニュースを見るときに、いつもほぼ無意識に見ていましたが、そこで思考停止しないで、なぜそのようなことが起こるのかを考えることをやらなければいけない。
- まずやらなければならないことは、言葉で相手に自分の気持ちや物事を素直に性格に伝えるようにすることです。私は、人に言葉で伝えることが苦手で、いつも伝えられずつまってしまいます。

今年度のユニセフが公表したのですが、日本は38国中で身体的健康度が最上位にもかかわらず精神的な幸福度は最低レベルでした。ついでに言うと、社会的スキルも最低レベルでした。

国際比較でも、青年期に幸せを追求できる環境を整えることが課題として示されて、緊急度が高いと感じています。

ソフトウェア開発でマーケティング方針を統一する方法をちょっと借りて、教育活動を考えてみました。

高東生の課題と幸福度の相関関係が右図です。



高東を当てはめると・・・

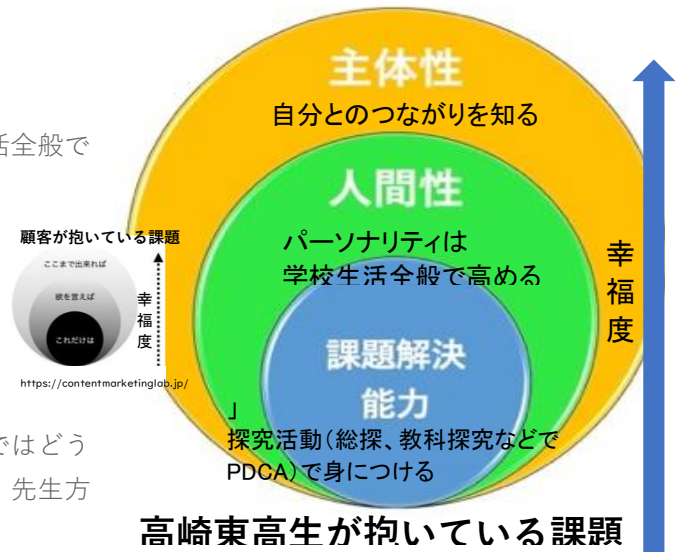
課題解決能力を身につけたらちょっと幸せ。

そのうえ「欲を言えば」部活動はじめ学校生活全般で豊かな人間性を高めることで幸福度が上がる。

さらに、どちらも主体性を持って、自分ごととして取り組めれば、遅しさ（レジリエンス）が身につき、失敗にも心折れず幸福度が高くなる。

「主体性」を引き出すことが鍵なのですが、ではどうやって？高東生にあった主体性の引き出し方は、先生方がすでに実践していらっしゃいますよね。

ぜひ先生方の貴重なノウハウを共有させていただきたいと思っていればちょうどよい機会がありました。😊こちらをご覧ください↓



「ちょっと見シート」をちょっと拝見

ステップアップサポート事業

あて先 (敬称略)	♡♡♡ ちょっと見シート ♡♡♡	授業者から一言
数学 K先生	<ul style="list-style-type: none"> 協働的、「気づき」を生かし合う授業になっています。 解き方の展開をみんなですていく授業でした。 	たまたま、生徒と考えていく単元だったというだけですが、日頃から生徒の発言を促すようにしています。
英語 H先生	<ul style="list-style-type: none"> 自分の解釈と先生の説明があっているのか注意深く聞く姿が見られました。有意義な活動で勉強させて頂きました。 	グランドデザインの「自己を知る」「他者を知る」「客観的に物事を見る」を意識して授業しました。今後は日頃から実践していきたいです。
情報 I先生	<ul style="list-style-type: none"> デジタルの世界が身近な興味深いものになりました。 人間の色覚の仕組みについても学び探究的でした。 	光の三原色の「赤」の認識を人類進化の視点から捉えることにより、「色」や「色覚」の理解をより深めさせることが狙い。

10月にステップアップサポート事業として、授業見学が行われました。

見学者は「ちょっと見シート」に振り返りを授業者宛に書きました。ちょっと拝借。こちらで紹介します。各教科指導で身につけた知識と技術を活用して「総合的な探究の時間」で連携できたら、ちょっとじゃなくてとても嬉しいです。